

交差点93号

発行：札幌市交通安全運動推進委員会
令和2年3月

手をあげて 小さな君も 信号機

内閣府特命担当大臣賞（優秀作）

子ども親も 自転車乗る時 ヘルメット

全日本交通安全協会会長賞（佳作）

「令和2年使用交通安全年間スローガン」（一般財団法人全日本交通安全協会・毎日新聞社）より

春の交通安全について保護者の皆さまへ



寒さの厳しい冬もようやく終わりに近づき、少しずつ春の足音が聞こえてまいりました。

子どもたちは新入園・新入学や進級をひかえ、それぞれが春の訪れを心待ちにしているのではないのでしょうか。

これからは、雪解けに伴いスピードを出すドライバーが多くなり、屋外での活動や外出する機会も増える季節になります。自転車の利用も増えることでしょう。

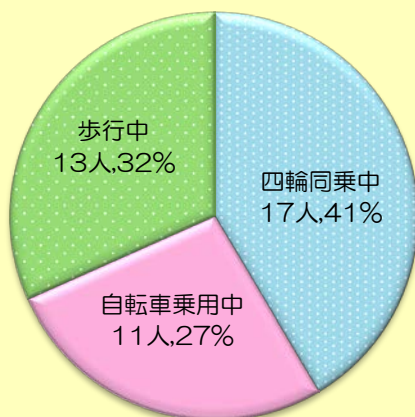
さて、昨年1月から12月までの1年間の札幌市内における中学生以下の子どもの交通事故死傷者数は216人（死者1人、傷者215人）でした。春期間の3月から5月の3か月間では、41人の子どもがケガをしています。

子どもたちが新しい季節を笑顔で健康に迎えられるよう、春休みの期間中に今一度家族で交通安全について話し合い、交通安全意識の向上に努めていただきますようお願い申し上げます。

昨年1年間（平成31年1月～令和元年12月）の札幌市内における中学生以下の交通事故状況

交通事故死傷者数	216人（前年比+17）
3月～5月までの傷者数	41人（前年比+1）

中学生以下の状態別傷者数 (H31.3～R1.5)



昨年3月から5月までにケガをした子どもの数を状態別に見てみると、四輪同乗中が17人と最も多く約4割となっています。同乗中のケガを防ぐためには、正しいシートベルトの着用を徹底させ、ドライバーはしっかりとスピードの出し過ぎや周囲の安全に注意して運転することを心がけましょう。

自転車乗用中にケガをした子どもは、4月は2人であったのに対し5月では9人でした。春になると自転車を利用する機会も多くなりますが、自転車は車と同じで車両です。自分がケガをしない、また、他人にもケガをさせないよう、正しいルールとマナーを教えてあげましょう。

北海道の気候では、春になっても雪が残っているなど路面状況が悪いことが多くあります。歩行中の転倒などにも十分注意しましょう！

春の交通安全指導のポイント

■道路や道路のすぐそばでは遊ばないように指導しましょう

→子どもが道路へ飛び出したり、車がいきなり突っ込んできたりする危険があります。
また、子どもは身体が小さいためドライバーから見えづらく、巻き込み事故などの危険もあります。
停まっている車にも十分注意するように指導しましょう。

■信号や横断歩道を正しく利用させましょう

→信号の正しい見方や意味、安全な横断の仕方について理解させましょう。
信号の色や信号機の有無に関わらず、道路を横断するときは必ず前後左右の安全確認を行うことが大切です。



■自転車を安全に利用しましょう

→北海道自転車条例（平成 30 年施行）では、すべての自転車利用者はヘルメットを着用するように定められています。

また、万が一事故を起こしてしまった場合のために、自転車損害賠償保険等に必ず加入しましょう。

ながら運転・ながら歩きはやめましょう！

令和元年 12 月 1 日の道路交通法等の一部改正により、運転中のいわゆる「ながらスマホ」の罰則が強化されました。運転中のスマートフォン等の使用は重大事故に繋がるおそれがあり、大変危険です！車を運転する大人は、絶対にしないようにしましょう。

また、自転車運転中のながらスマホも、法令等の違反となり 5 万円以下の罰金が科される場合があります。子どもたちには、自転車を運転しながらスマートフォン等を使用させないように必ず指導しましょう。

そして、「歩きスマホ」はもちろん、おしゃべり等に夢中になりすぎて周囲の危険に気づかない…なども大変危険な状態です。

事故に遭ってからでは遅いものです。日々の心がけで事故を未然に防ぐことができるようにしましょう。

ゲーム機の操作も
もちろんダメ！！



安全な場所で
立ち止まるか、座って
使用しましょう

★ご活用下さい★

札幌市交通安全運動推進委員会では、毎年札幌市内の学校あてにランドセルカバーや交通安全啓発用の冊子等をお送りしていますので、ぜひご活用下さい。

不足分がありましたら、お子さまの学校または札幌市交通安全運動推進委員会にご相談ください。



※写真は平成 31 年度配布版です

※「まもろうね!! 一年生」、ランドセルカバー、黄色いワッペン（保険付き）は新入学児童分を小学校へ、

「セーフティ自転車ライダーのススメ！」は全生徒分を中学校・高校へ配布しています

道路を渡るときの

4 つのやくそく！

どうろをわたるまえにとまる

くるまがこないかみる

くるまのおとをきく

くるまがとおりすぎるまでまつ

